

能美市老人クラブ連合会とのタウンミーティング

日 時 令和6年11月29日（金）17:15～18:10

会 場 八松苑

参加人数 約80人

1) 開会

2) 老人クラブ連合会 会長 挨拶

3) 市長 市政報告

○はじめに

・今、市内の男性の最高齢は105歳で、女性は106歳である。100歳以上は37名いらっしゃるが、そのうち女性が32名、男性は5名である。ぜひ男性の皆さんには頑張ってください、女性の皆さんもさらに長生きをしていただければ、能美市の人口はどんどん増えることになるので、まずは皆さんに健康でいていただけるようお願いしたい。

・来年の2月1日に能美市が誕生して20年を迎える。今日は、これまでどんなことをやってきたか、そして今後どんなことをやっていくかをお話しさせていただく。

・「折り紙で作った電車の最多展示数」でギネス世界記録を更新した。これまでは佐賀県嬉野市が西九州新幹線開業時に作った1万9,000枚がギネス記録であった。その記録を北陸新幹線県内全線開業に合わせて更新しようと挑戦したところ、なんと能美市の人口の倍以上である12万枚も折り紙が集まった。ギネス記録員の審査の結果、記録は8万2,034枚となり、この数を皆さんに覚えていただくために即興で「やったぜ(8)、にっこり(2)、の(0)、み(3)、し(4)」という語呂合わせを考えた。来年の3月まで、市役所に折り紙の展示をし

ているので、ぜひご覧いただきたい。

○令和6年能登半島地震

・市内での一番大きな被害は、のり面崩落により、緑が丘の市道が約20メートルにわたって陥没したことである。このほか、マンホール周辺の陥没や美化センターののり面崩落、福岡小学校プールの液状化、神社の燈籠や石碑の倒壊等があった。産業界では九谷焼の被害が一番多かった。罹災証明書の申請が約2,300件出されている。今、能美市には約2万軒住宅があり、約1割に被害が出たということである。

・ワンストップ窓口を設置し、市民の皆さんが1か所で様々な手続きを行え、相談もできるように体制を整えた。

・能登からの被災者を受け入れるため、避難所の設営を行った。辰口福祉会館や旅館、ホテルだけでなく、市営住宅や借り上げた市内のアパートに住まわれたり、友人や知人の家に身を寄せられたりした方もいらっしゃって、一番多いときで約300名の方が避難をされていた。

・避難者の様々な要望を聞き、困り事に対応するために、サポート窓口を開設した。

・被災地への支援として、職員の派遣を行っており、今も保健師を派遣している。また、消防車や救急車、給水車、パッカー車の車両派遣も行った。市民の皆さんから集まった義援金や物資を能登へお届けするとともに、イベント等で能登の様々な特産品の販売も行った。私も何度か能登へ被害状況の確認に行き、首長さんとどのようなことが必要なのか情報交換を行った。

・根上り七夕まつり等で御陣乗太鼓の披露も行っていた。また、根上り七夕まつりの特別企画として、市民の皆さんや中学生の協力のもと、輪島市の白米千枚田で使用している「ペットボトル」を借り受けて、根上総合文化会館の芝生広場に約2万5,000本を飾り、能登地区の復旧・復興を祈念したイルミネーションを行った。

・能美市では競歩の20キロ大会を、輪島市では35キロの大会を行っていたが、被災の影響で輪島市では行えないことから、3月に能美市で競歩の20キロと35キロ、両方を同日開催する。

・9月には豪雨被害もあり、大きな自然災害がどうして同じ年に能登ばかりに起こるのか、未だに信じられない思いである。11月の初めに、被害状況を確認しに行ったが、地震で地盤が緩んでいるところに雨が降って、それが土石流のように町を襲い、一つの集落が全部

泥に埋まっているというような状態であった。現在、能美市の避難所に避難されている方はいらっしゃるが、市営住宅やアパート、友人や知人の家に身を寄せられている方はまだいらっしゃるの、安心・安全に、そして快適に暮らしていただけるようサポートしていく。「能登」と「能美」は漢字1文字しか変わらない。その能登に対して、復興が果たされるまでしっかりと応援をしていきたいと思っているので、ぜひ老人クラブの皆さんにもご理解、ご協力をいただきたい。

○令和6年度事業・施策／方針・目的

・事業・施策の方針に7本柱があり、毎年5つの方針・目的を設定し、そのすべてが移住定住の促進につながるように取り組んでいる。自治体の繁栄を表す数値はいろいろあるが、私は人口が重要だと思っている。人口増には自然増と社会増があり、今、日本のほとんどの自治体と同じように能美市も自然減となっている一方、能美市は社会増である。ただ、自然減を社会増で補えず、少し人口が減ってきている。いかに健康寿命を延ばすか、また赤ちゃんを産みたいと思ってもらえるような環境を整備するかが重要であり、そのための取組を行っている。

○防災減災対策

・一昨年(2021年)の8月に大雨が降り、市内の様々なところで床上床下浸水をした。頭の中でイメージしていただくと思うが、能美市に流れている川は一本も直接日本海に注いでいないので、市内に降った雨をいかに手取川や梯川に流すかが、内水被害を抑える最大のポイントとなる。

・一昨年(2021年)の8月の大雨を受け、手取川宮竹用水土地改良区と協定を結び、大雨警報が出たときに手取川から取水しないようにした。これによって、宮竹用水を宮竹排水として使うことができ、市内に降った雨を手取川又は梯川に流すことで、川の増水が抑えられる効果が結構出てきている。

・個別避難計画の作成を進めており、身体が不自由な人や高齢者等が災害時に取り残されずに避難できるようにしようとしている。あらゆる自然災害を24時間365日想定して、一人一人計画を作ることはハードルがなかなか高く、まずは被害が比較的大きくなることが想定される地域から個別避難計画の策定を進めている。

・避難所等を示した紙のハザードマップを配付しているが、避難の時にスマートフォンを

持って逃げられる方がほとんどだと思うので、スマートフォンで避難所等を確認できるようにデジタル防災ガイドブックを作ろうと取り組んでいる。

- ・令和6年能登半島地震を受けて、災害備蓄品を増やし、簡易トイレ袋と使い捨て哺乳瓶の備蓄数を倍にした。そのほか、今いろいろな情報を取りながら、この避難物資の見直しを行っている。

- ・一昨年(2023年)の8月の大雨で福島町のしらさぎ団地が浸水したことを受け、大雨が降っても西川、熊田川がバックウォーターすることを防ぐため、樋門を造っている。また、しらさぎ団地付近の川幅を倍にする工事が始まっている。

- ・鍋谷川が注いでいる梯川の川幅を広げ、体積土砂の除去等行っている。また、和気小学校前の鍋谷川の川幅を倍にする工事也开始しており、一昨年(2023年)の8月の大雨と同じ雨量となっても同じような被害にならないよう、今、国や県の協力を得ながら急ピッチで対策を進めている。

- ・火事が増えており、発生件数が昨年は5件だったが、今年はもう9件になっている。火災や自然災害に対応するため、はしご車や津波・大規模風水害対策車、ドローン等、いろいろな資材を整えている。また、救急車も能美市の人口規模では、3台体制で十分とされているが、金沢大学附属病院や県立中央病院への搬送を行うとなると、その間、市内の救急車の数が不足するので、最新鋭の救急車をもう1台増やし、4台体制としている。

- ・2018年に大雪が降ったことを受け、小型式の除雪車を増やし、皆さんに使ってもらえるようにしている。また、最近は雪があまり降らないため、大きな除雪車を動かすオペレーターが少なくなっており、オペレーター研修費用の一部を市で負担するようにしている。

- ・宮竹小学校エリアでゾーン30プラスを導入し、30キロ以上スピードが出ないような工夫を行った。交通量が多く、子どもたちの通行や人が多いエリアで、やさしい道路空間づくりを進めており、これまで福岡小学校エリアでも対策を行っている。辰口中央小学校周辺も取り掛かっている。

- ・石川県警から首長で初めて安全安心・広報インフルエンサーという大変重要な役をいただき、月に2回、県警がやっている取組をブログ等でPRしている。

- ・防災行政無線が聞こえにくいという声を受け、最新型のものに取り換えた。また、災害情報をいつでもどこでも受け取れるよう公式LINEとNomimailを導入した。災害情報だけではなく、能美市の様々な情報を簡単に取得することができるので、まだ登録されていない方はぜひお友達登録していただきたい。

○市民力・地域力の強化

・能美市は市民力・地域力が大変高く、そのおかげで我々行政の運営ができており、大変感謝している。市民力・地域力の維持に一番重要であるのが、町会・町内会であり、皆さんの老人クラブもいろいろな面で能美市にとっては大変力強い存在である。ただ、今、壮年団や婦人会等の所属人数が大幅に減ってきており、何とかしなければならないと思っている。壮年団や婦人会がなくなると、町会・町内会の運営に将来大きく影響してくるのではないかと大変危機感を覚えている。もし、良い案があれば教えていただきたい。

・市民力・地域力の強化には、まずは健康であることが大切であり、サnteをリニューアルオープンするとともに市立病院に健診センターを設置した。また、今、日本人の2人に1人ががんになると言われており、早期発見、早期治療が一番大事であることから、DWI B S検査やP E T検査の助成等を行っている。

・能美電が開通して100年、廃線となって45年、能美市誕生20周年の節目である2025年に合わせて、3年前から北陸鉄道能美線跡の健康ロードのリニューアル整備を順次進めている。健康ロードは多くの市民が歩いたり、通学路としても利用されていたりするので、桜の根による隆起の修繕、街灯の整備等を行っている。また、駅があった場所に看板を付け、周辺施設の紹介等も行いたいと考えている。

・子育て世帯の家計を支援するため、学校給食費の無償化を行った。中学校は、昨年度の2学期から、小学校は3学期から無償化を行っている。

・小中学校では、G I G Aスクール構想を推進し、子どもたちがみんなChrome bookを使って授業を受けている。

・最近、不登校だけではなく、学校には行けるが教室に入って一緒に勉強できないという児童が増えてきているため、ふれあい教室を増やしている。

・能美市は企業誘致が好調で、地元企業も増床していることから、人財不足となっていており、人財確保の取組を行っている。その一つが、寺井高校の卒業生に能美市で働いてもらうため、まずは寺井高校の志望者数を増やそうと、給食センターから寺井高校に給食を運べないかと検討している。このことによって、保護者は弁当をつくる負担が減り、子どもたちも栄養価の高いおいしい給食を食べることができるようになる。

○地域ブランドの確立

・市民の皆さんに、幸福度や暮らしやすさ等を調査したウェルビーイング指標によると、能美市の強みは「住宅環境」や「子育て」、「自然の恵み」であり、弱みは、「買い物・飲食」「遊び・娯楽」「移動・交通」であった。しかし「遊び・娯楽」では、市内には、いしかわ動物園や手取フィッシュランド、ゴルフ場等があり、遊ぶ場所はそろっているのではないと思う。「買い物・飲食」についても、のみ商業協同組合の75店舗やスーパー、ドラッグストア等がある。

・企業誘致が大変好調であり、市税収入が増えている。令和元年度に初めて90億円を超え、その後も順調に推移をしている。また雇用先も増えることになるので、大変ありがたい。

・能美根上駅では、待合室やワーキングスペースを作るとともに、列車の接近音を能美市出身の方が作詞した夏の甲子園のテーマソング「栄冠は君に輝く」に変更した。また、駐車場がよく満車となっているので、拡張するとともに、駐車料金の支払いに電子マネーも使用できるようにする。

・福島グランパークに新しい総合商業施設ができる予定であり、女性が活躍できる場所がさらに増えることになる。今、多くの皆さんがここにどのようなお店ができるのかと関心を持っているが、まだ決まっていない。

・辰口フラワーハウスの跡地については、道の駅の機能を持った施設を建てたいと計画している。周辺には、いしかわ動物園や辰口丘陵公園、ゴルフ場等の観光施設がたくさんあるので、能美市のお土産品を一堂に揃えた施設を造りたいと考えている。

・和気の岩のドッグランも人気があるが、手狭なので、リニューアルを行う予定である。

・能美市のことを広くPRし、能美市を選んでもらえるように、シティプロモーションを行っている。例えば、名誉観光大使である松井秀喜氏に協力をいただいたいて、アニメCMを制作し、テレビCM等を行っている。

○インクルーシブシティ構想

・インクルーシブというのは、誰一人取り残さない、仲間外れにしないという意味であり、能美市に住んでいらっしゃる健康な人も、障がいをお持ちの人も、高齢者も、子どもも、外国人も、全ての人が安全・安心、快適に暮らせるように、デジタルの力を使って地域共生社会の実現に取り組んでいる。

・市内82の公民館にWi-Fiを整備して、デジタル公民館として様々な取組を行っており、例えば、高齢者はいきいきサロンやスマホ教室に参加するために、子育て世代はeスポーツを

体験するために、子どもたちにはChrome bookを持って、勉強するために公民館に来てもらう。そして、子どもたちが、勉強でわからないことを高齢者や子育て世代の方に教えてもらったり、高齢者がスマホの使い方を子どもに聞いたりというような交流を公民館でできないかと考えている。

- ・公民館でのオンライン診療にも取り組んでいる。慢性疾患をお持ちの方は月に1回、薬をもらうため、通院して診療を受ける必要があるが、その負担軽減を図るため、公民館でオンラインによる診療が受けられるようにしようとしている。栗生町で試験的に始めており、様々な課題を解消しながら、順次広げていこうと考えている。

- ・東日本大震災のときにカルテが流され、診療情報がわからなくなったこともあり、全国的に電子カルテ化が広まった。今回の能登半島地震では、能登の一部の人が電子カルテに登録してあったことから、避難先の能美市でも薬をもらったり、透析を受けたりすることができた。能美市全体で同じ電子カルテを広げることによって、検査結果を他の病院でも確認でき、医療費が安くなり、診察のスピードが上がるという利点があるほか、ケアマネージャーや薬剤師、救急隊等が情報を共有できるようになるメリットがある。また、万が一、能美市に大きな災害が起こり、市民が他自治体に避難しても、そこでスムーズに薬がもらえるようになるので、少しずつ今準備を進めている状況である。

○能美市誕生20周年・北陸新幹線県内全線開業

- ・能美市には北陸新幹線の駅がないので、小松駅に「となりは能美市」という看板を出してPRしている。金沢へ行くホームのエスカレーターがない階段のところにあるので、ぜひご覧になっていただきたい。

4) 質疑応答、意見交換

質問・意見1

【参加者】加賀市がライドシェアを行っているが、能美市はのみバスだけで、ライドシェアを採用しないのか。

【市長】今、タクシーの運転手が不足しており、二種免許を持っていなくても、人を乗せ

られるライドシェアが広がっている。加賀市や小松市が行っているライドシェアは、観光客を対象としたものである。能美市では今、交通弱者を対象としたライドシェアを里山エリアから始めようとしている。ただ、いろいろな課題もあるので、検証を行いながら、順次市内全域に広げていこうと思っているので、もう少し待っていただきたい。

質問・意見 2

【参加者】高齢化の中で、いかに健康長寿を伸ばしていけるかが極めて重要で、その中で老人会、老人クラブの果たす役割がかなり大きくならなければ、老人会の存在意義はないと思っている。医療、介護にかかる費用の節減も含め、健康寿命を延ばすためには、予防が大変重要になってくると思うので、今年度の予算の中でどういう対策をされているか、少し聞かせてほしい。

【市長】やはり楽しんで参加いただけることが一番大切ではないかと思っている。秋の文化祭等、結構文化イベントを実施しており、また、体を動かす機会も大切なので、スポーツフェスティバルや高齢者を対象とした体操教室等も開催している。そういったイベントを大きな会場だけではなく、皆さんの行きやすい場所、例えば身近な公民館等で開催し、参加者数を増やすことも大切である。また、自身の健康状態をチェックすることも長生きの秘訣だと思うので、先ほど説明した健診体制を整えたり、オンライン診療を導入したりして、健康寿命を延ばす取組を行っている。楽しみを増やしていくことが皆さんにとって、さらに元気になってもらえる秘訣ではないかと思っている。

5) 老人クラブ連合会 副会長代理 挨拶

6) 閉会